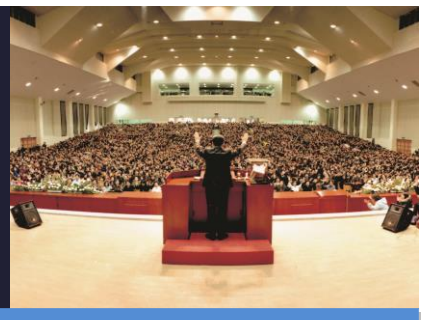
第 2018-44 号

恵みと真理のニュース



2018 年 11 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

主を畏れることは知恵の初め。無知な者は知恵をも諭しをも侮る。

私の家はあまりにも貧しかったので高校もまともに卒業できませんでした。７人兄弟の中で弟の５人を除いて長女だった私と娘の二人は早く勉強を終えて家事を手伝いながら暮らさなければなりませんでした。結婚する前まで父親がよく読む観相、手相、相性本を読んで時間があったら友達とお寺に行って良い人と結婚できるように祈りました。親の紹介で早く結婚しました。旦那は健康で真面目なので誰よりも農作業がよくできました。旦那は４人教会の中で末子でしたが、善良でまじめな性格なので婚家で 舅と姑 にかしずいて暮らしました。ところが、旦那の二人の兄がたまに酒をたくさん飲んで家を訪ねて理由もなくけんかをかけて乱暴のように行動をしました。私が考えるには私たちの夫婦を追い出して婚家の財産を奪うための行動でした。私たちの夫婦は上の子が１歳になって家庭の平和のため婚家から出てモッポ市にある小さい店を構えました。はじめは旦那の兄たちを恨みましたが、その理由で分家したのがむしろ大きい福になりました。なぜならモッポで住みながら福音を聞いてイエス様を信じたからです。

旦那と違って、私は主日でも店に行って働くので教会に行けなかったです。どころが、ある日、体が痛くて動くことが出来ませんでした。漢方の薬を飲んでも何の効果もなくて病院で入院して治療を受けてみても同じでした。力もなくてトイレも行けないし、何も食べることが出来ませんでした。その時、実家のおばさんが来て“教会の牧師を招いて礼拝を捧げ牧師の祈りを受けてみようとしました。牧師が来られて説教と祈りをして下さる時、理由もなく涙を流しました。もし、歩けるならイエス様を良く信じて熱心に教会に通うと決心しました。ところが、その礼拝を捧げた後から嘘のように私が歩けるし、走れるようになりました。その時から、神様に礼拝ささげるのが好きで、ニコニコ讃美歌を歌いながら教会に通いました。区域礼拝も熱心に参席して経済状況が豊かではなくても心を尽くして神様に十分の一献金を捧げて聖米を捧げました。建築の仕事をする旦那についてソウルに引っ越した後、私たちの夫婦は熱心に信仰生活をしました。ソウルで家を借りてしばらく暮らしてアンサン市で家を買って引っ越しました。

アンサンに来てから通う教会を決めるのがなかなか難しかったです。それで、二か月間あちこち教会に行く時でした。ある日は長男がパソコンを直すためある人の家に行ったらその家の主人が恵と真理教会の区域長でした。区域長が息子に教会に通っているかと聞いて、親が今通う教会を決めなくて祈っているとその話を聞いてすぐ私に尋ねてきました。教会が遠くて迷っていましたが、主日の朝、区域長の 区域長が車を運転して迎えに来ました。

教会に入ってみると多くの聖徒が明るい顔で出入りする姿を見て教会によく来たと思い御言葉を期待しました。そして、期待した通りでした。忙しく職場生活をしていましたが、区域長が導いてくださる通り、礼拝と祈りと祝福盛会に休まずに参席して当会長の牧師の説教を聴いて恵みを受けました。

旦那が職業の事情で家族と離れて１５年間を 客地で生活しました。私は旦那が送ってくれる月給から十分の一献金をきちんと神様に捧げました。旦那が家に来ると主日に自分で十分の一の献金を捧げると言い争いではない言い争いもするときがいました。客地の生活する中でも信仰を持って子供のように主を愛しながら生活するように導いて下さる神様の恵みに感謝します。今は、旦那と私が受けた恵で、感謝の心で別々十分の一献金を神様にささげています。私たちの夫婦が神様を畏れ、熱心に礼拝して仕える生活をすると神様は二人の息子に限りない恵みと愛を与えて下さり良く育つようにしてくださいました。二人も熱心に勉強して自分が入りたい大学に入って、教会学校の教師として奉仕しながら大学院までよく終えました。神様に感謝します。

私たちの夫婦はたとえ世の勉強、学校の勉強はたくさんしなかったですが、イエス様を信じ神様を委ねて生きる時、聖霊様が知恵と能力をくださって勉強をたくさんした人の前でいじけなくて堂々と生きることが出来ました。“主を畏れることは知恵の初め／聖なる方を知ることは分別の初め。”（箴言９：１０）世の中でいくらたくさん習ったとしても救いに関する神霊な知識がなくてイエス様を信じないので滅亡に至る愚かな者たちを考えるとかわいそうで気の毒で、もっと神様に感謝するようになります。

旦那は最近、教会で聖書勉強をしていて朝、夜、熱心に聖書を読んで御言葉を黙想しています。老いて仕事はしないがその代わり、最近もっと熱心に礼拝と伝道に力を尽くしています。特に婚家の家族のため祈っています。以前は見えなかった旦那の姿を目新しいです。“ところが実際は、彼らは更にまさった故郷、すなわち天の故郷を熱望していたのです。だから、神は彼らの神と呼ばれることを恥となさいません。神は、彼らのために都を準備されていたからです。”私はほかの大きい希望はありません。私たちの夫婦が天国に行く日まで信仰生活を真面目にするのが大きい願いです。そして、婚家の家族まで家庭福音化が成し遂げられるように、息子達も相変わらず主を愛し主の事に大きく献身することが重要な祈り課題です。

［信仰コラム］　原則と所信

”変らない真実をもって，わたしたちの主イエス・キリストを愛するすべての人々に，恵みがあるように。”

人は原則と所信を持つべきです。原則とは根本になって普く適用される法則です。生活の原則がない人は一貫性を持って行動することができません。原則とは船の帆と櫓あるいはスクリューと舵のようなことです。帆や櫓あるいはスクリューや舵がない船は風が吹く通りに、波立つ通りに押されるようになります。所信とは自分が信じて考えることにおいてその通に行動する態度を意味します。所信通りに行うということは主観を持って堂々たるに行う態度を意味します。考えなく行動したり、他人の言葉に動揺せず自分の考えを屈せず行うのです。

聖徒達の生活には必ず適用されるべきの大原則があります。それはエホバ神様だけを相変わらず信じて愛しながら仕えるという原則です。

神様は人間を神様の形像通りに想像なさい神様が造られた創造物を管理するようになさいました。そして自由意志を持った人格体として神様と善悪の実の言約を結ぶようになさいました。神様の形像通りに想像された人間が神様と言約を結ぶ対象になることでより尊さを得るようになりました。従って、人間が持つべき生活の大原則は聖書に啓示されたエホバ神様だけを相変わらず信じて愛しながら仕えることです。そしてこの原則に合う所信を持って行動すべきです。

旧約聖書に登場する予言者はこのような原則と所信が明らかな人々でした。彼らの中でエリヤ予言者は傑出な人物です。しかし、エリヤに関する記録を見ると彼が持った原則はテコでも動きませんでしたが、その原則に合い所信に従って行動できなかった場合がありました。アハブ王がイスラエル国を治める時にあったことです。エリヤはエホバ神様だけに仕えるという原則には変りがありませんでしたが、偶像崇拝者を恐れないという所信が崩れてしまいました。24 時間内に彼を殺すという王侯イセベルの通牒を受けると慌ただしくベエル・シェバに逃亡しました。そして一人で広野に一日の道程をもう行ってえにしだの木の下に座って神様に死ぬことを求めました。神様が特異な方法で彼が神様の臨みを体験するようにしてくださり再び所信通りに行動するよう手伝ってくださいました。このようなことが私達に反面教師になります。

新約時代に生きる私達には神様が御自分の御名を旧約時代とは異なって啓示なさいました。これはとても重要な事実なので私達が明確に理解して知るべきです。

旧約聖書に記録された神様の称号の中で第三の呼称は’エロヒム’’エホバ’’アドナイ’です。その中で’エホバ’は神様が直接御自分の御名として啓示なさった固有名詞です。’エホバ’という名は神様が彼の民と言約関係を表わす場合に多く使われました。エホバ神様は救いの約束与えてくださり、これを叶えられる救い主としてほぼ全ての言約がイエスキリストの中にある恵みと救いに関連されます。エホバ神様はその全ての言約をキリストイエスの中で完全に叶えられます。それで旧約時代には神様が御自分の御名を’エホバ’だと啓示なさいましたが、新約時代に来ては’イエスキリストの神様’だと明らかに啓示なさいました。コリントの信徒への第二の手紙 1 章 3 節に”ほむべきかな，わたしたちの主イエス･キリストの父なる神，あわれみ深き父，慰めに満ちたる神”としました。エペソ人への手紙 1 章 17 節には”どうか，わたしたちの主イエス･キリストの神，榮光の父が，知恵と啓示との霊をあなたがたに賜わって神を認めさせ”としました。私達が信じて愛しながら仕える神様は聖書に啓示された神様すなわち、イエスキリストの神様であるべきです。

聖徒達の生活の大原則は聖書に啓示されたイエスキリストの神様だけを相変わらずに愛して仕えることです。人が適用すべきの全ての原則と所信はこのような大原則に基づかなければなりません。皆さんはこのような原則に固く立って物事に所信通りに行動してください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

神 の わ ざ

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

使徒パウロは、テサロニケ教会に送った手紙で記録するのを**「誰でもしこうとしない 者は，食べることもしてはならないと 命じておいた」（テサロニケ人への第二の手紙 3:10）**しました。今日の本文には、このようなことは次元が非常に異なることについて語っています。**「神のわざ」**に関するものです。まず、「永遠の命を得る神のわざ」について説明し、次に永生を得た人の福になる義務として「神のわざを考えて見ること」について説明します

まず、「永遠の命を得る神のわざ」とは何なのかを見てみましょう。

イエスがベツサイダに集まった群衆のために大麦のパン五つと魚二匹で奇跡を行なっていただきました、数千人が腹いっぱい食べました。そして弟子たちに、まず船に乗って湖を渡って行きました。イエスは群衆を散らさて送らせ一人で山に登り祈りました。夜が深かったが、弟子たちが湖の中の激しい波風に会って死ぬ苦労をしていました。そのときイエスが海の上を歩いて彼らに来たので暴風が静かになりました。夜が明けて群れがイエスを見つけてきました。それらに向かってイエス言われた **「よくよくあなたがたに 言っておく． あなたがたがわたしを 尋ねてきているのは， しるしを 見たためではなく， パンを 食べて 満腹したからである」と**しました
そして続いて言われた**「朽ちる 食物のためではなく， 永遠の 命に 至る 朽ちない 食物のために 働くがよい． これは 人の 子があなたがたに あたえるものである． 父なる 神は，人の 子にそれをゆだねられたのである」（ヨハネによる福音書 6:27）**しました。 「食物」とは、永遠の命を意味します、永遠の命は、イエスが与えられたとしました。これらの事実は、父なる神がイエスにある値になったからだと言われました。イエスが言うのを権威はすべて、父なる神が確証されたものです。永遠の命になる食物のために働きなさいと言われるたのを聞いて、彼らが質問するのを**「神のわざを 行うために， わたしたちは 何をしたらよいでしょうか」としました。イエスは 彼らに 答えて 言われた， 「神がつかわされた 者を 信じることが， 神のわざである 」**としました。永遠の命を得る神のわざが神が遣わされたイエス・キリストを信じるのです

次に、「永遠の命を得た人が考えなければならない、神のわざ」について見てみましょう。

永遠の命を得た人には、永遠の命を得た人らしく生きる義務が従ったこれらの義務として、神のわざがあります。
イエスが弟子たちに、今から迫ってくるのを予告しました。自分がエルサレムに上って行けば多くの苦しみを受け、殺されなければならないと三日目によみがえるのを明らかにしました。すると、ペテロがイエスをつかまえて引き止めました。「主よ、そんなことはありません。このようなことは決して主に起こらないでしょう。」イエスは振り向いて、ペテロに言われた**「イエス は 振り 向いて， ペテロ に 言われた， 「サタン よ， 引きさがれ． わたしの 邪魔をする 者だ． あなたは 神のことを思わないで， 人のことを 思っている 」（マタイによる福音書 16:23）。「それから イエス は 弟子たちに 言われた， 「だれでもわたしについてきたいと 思うなら， 自分を 捨て， 自分の 十字架を 負うて， わたしに 従ってきなさい」（マタイによる福音書 16:24）と**しました。
この場面を見て、私たちに二つの質問が生じます。まず、ペテロがどうしてこのような行動をするようになったのでしょうか？第二に、このような現象が、私たちに起こらないようにするには、どうすればよいか イエスがペテロに言われた言葉にその答えがあります。 **「あなたは 神のことを 思わないで， 人のことを 思っている」**（マタイ 16:23）。これは最初の質問に答えています。 **「だれでもわたしについてきたいと 思うなら， 自分を 捨て， 自分の 十字架を 負うて， わたしに 従ってきなさい」**（マタイ 16:24）。これが第二の質問に答えています
ペテロがこのような行動をしたのはなぜですか？イエスに起こること、自分が望むことが異なっていたからです。ペテロをはじめて弟子たちは、イエスがイスラエルをローマの圧制から解放させていただきたいと願いました。そうなれば、弟子たちは高い官職を得て栄えを享受という期待をしていました。ところが、イエスが十字架につけられ、死ぬことを予告したので自分の期待に反する言葉なので、引き止めしたのでしょう。イエス様が十字架にくぎつけられて苦しみを受けるのが、神のわざです。これを引き止めるのは、人のわざです。一般的な倫理でみると、師匠が凄惨な苦難を受けるのを知ると、そのようなのがあってはならないと引き止めるのが当然です。しかし、イエスが受ける苦難は罪人を救うために、神が定められた神のわざです
私たちは、人のわざより、神のわざを第一に考えなければなりません。神のわざによって人のわざが判断されて取捨選択しなければなりません。そのために、私たちが覚悟して実践しなければならないのがあります。イエスが言われた〝自分を否定して、自分の十字架を背負って、私に従いなさい」としました。ここでは 3 つのポイントがあります。

第一に、自分を否定しなければなりません。

すべてのわざを自己中心的に理解して判断するのを拒否して、神様を中心に理解して判断するのが、自分を否定する態度です。自分を否定すると将来の進路、生活の計画を神に聞いて、神の導きを求めるようになります。自分を捨てて、自分のこだわりとの主張がなくなってしまうと、神の言葉のとおり行います。自分の欲と我執を投げ出す自分の否定をして、神様の御言葉を肯定するとすべてに最善を尽くして神にゆだねて生きるのができます。熱心を尽くしてわざがすべての進行も結果も、神の手に任せてしまいます。それでは、神の平安が、その心を主張するのを体験することになるでしょう。
使徒パウロは、イエスに会う前に、すべてのわざを、自己の願いのとおりしました。そしてステバン執事を殺すのを加担しました。クリスチャンを縛って獄に閉じ込めました。そのことも足りなくて、外国の城のクリスチャンを捕まえようとダマスコに行きました。ダマスコに近づいたときに、突然、強烈な光が彼と彼の仲間を囲んで照らしたので地面に倒れました。その時、神様の声が聞こえてきました。 「サウロよ、サウロよ、あなたはなぜわたしを迫害するのか？」「主は誰ですか？」と質問したら、「私はあなたが迫害しているナザレのイエスだ」という答えが聞こえてきました。その所で彼は完全に変化しました。今まで自分が好きなことを行ったパウロは、この日から「主よ、私は何をすべきですか？」と聞きながら行動しました。これが自分を捨て、主に肯定する姿勢です。また、神のわざを考えている態度です

第二に、自分の十字架を負わなければなりません。

イエス・キリストの十字架を負いなさいではありません。イエス様が十字架を負ったのは、人類のあがないの大業を完成される一度の事件です。イエスはペテロに、「自分の十字架を負いなさい」と言われました。クリスチャンは各自が負うべき十字架はイエス・キリストに仕え愛し、伝るので経験する苦痛、損失、犠牲、迫害を意味します。これらの 十字架は、神聖な喜びと希望の中のすべきです。これは永遠の価値と意味を持つものです。自分の十字架を負うのを気にしたり、忌避しないでください。恥ずかしがらないでください。自分の十字架を喜んで負うのが、神のわざを考えている生活態度です

第三に、イエス・キリストに従ってください。

復活されたイエス様が早朝ガリラヤ湖畔に来られました。イエスが弟子たちに朝食を食べた後に、ペテロに「あなたはわたしを愛しているか」という質問をしました。「はい、主よ、私が主を愛するのを主がご存じです。」と答えたら、「わたしの羊を飼いなさい」と言われました。このような会話が 3 回繰り返た後、ペテロに**「よくよくあなたに 言っておく． あなたが若かった 時には， 自分で 帶をしめて， 思いのままに 歩きまわっていた． しかし 年をとってからは， 自分の 手をのばすことになろう． そして， ほかの 人があなたに 帶を結びつけ， 行きたくない 所へ 連れて 行くであろう 」**と言われました。**これは、 ペテロが どんな 死に 方で， 神の 榮光をあらわすかを 示すために， お話しになったのである． こう 話してから， 「わたしに 従ってきなさい 」**と言われました
ペテロが戻ってみるとヨハネがありました。ペテロがイエスに、**「ペテロはこの 弟子を 見て， イエス に 言った， 「主よ， この 人はどうなのですか 」と質問しました。イエスは 彼に 言われた， 「たとい， わたしの 來る 時まで 彼が 生き 殘っていることを， わたしが 望んだとしても， あなたにはなんの係わりがあるか．あなたは， わたしに 従ってきなさい」（ヨハネによる福音書 21:22）**しました。あなたはイエス・キリストだけ見て従ってください。不断の努力と熱心を尽くし主だけ見上げて従うのが、神のわざを考えている態度です

皆さんの中でまだイエス・キリストを信じない方は、「永遠の命を得るために、私たちがしなければなら神のわざは、イエス・キリストを信じるものです」これを覚て神が遣わされたイエス・キリストを信じて受け入れてください。すでに永遠の命を得た聖徒の皆さんは、「すべてのことに神様が願う神のわざをするために絶えず自分を否定して、自分の十字架を背負って、主だけを従ってください。